

## J R R - 2 原子炉施設の検討書

JRR-2 は、熱出力 10MW の濃縮ウラン燃料を使用した重水減速・冷却型の非均質型炉で、昭和 35 年に臨界となり、以来 36 年間にわたり原子炉用燃料・材料の照射試験、RI の生産、中性子回折実験等に使用されてきたが（積算運転出力約 726,500MWh）、平成 8 年 12 月 19 日に原子炉を永久停止した後、平成 9 年 5 月 9 日に、原子炉等規制法第 38 条第 1 項に基づく解体届(9 原研 05 第 78 号)を国に提出し解体工事を開始した。その後、原子炉等規制法の改正に伴い、平成 18 年 5 月 12 日付けで、廃止措置計画の認可申請(18 原機(科バ)003)を行い、11 月 6 日付けで認可(18 諸文科科第 940 号)を取得した。

なお、平成 15 年度までに燃料及び重水については全て日本原子力研究開発機構外に搬出済みであり、原子炉本体、原子炉建屋及びそれらの維持管理に必要となる施設・設備を除き、解体を終了している。

施設の現状は、放射化した原子炉本体（重水タンク、炉心部に収納している制御材等）と内部に残留する重水、放射化した腐食生成物が付着した機器並びに建屋が残存していることから、地震時に周辺の公衆に過度の放射線被ばくを及ぼすおそれはないため、耐震設計上、重要度分類 S クラスとして検討を行う原子炉に相当しない。

以上